

今福線レポート

桑野 浩之

1. はじめに

今年で今福線研究分科会 4 年目の参加となりました。今年度の活動は、何と言っても「広浜鉄道今福線シンポジウム」の開催です。当日は縦断技術士会のメンバーも参加され大盛況でした。8月8日、9日に開かれたシンポジウムについて報告します。

2. 一日目（8月8日）

一日目は、13:00 時から受け付けが始まり、約 150 名の方がシンポジウムに参加されました。13:30 から鉄道ライター森口氏による「未完に終わった鉄道計画 今福線・広浜鉄道の歩みとその意義」と産業観光コーディネーター赤澤氏による「地域資源を活かした新しい産業観光スタイル」の 2 つの基調講演で、15:30 から「鉄道ファン×観光×土木技術×地域、4つの視点から考える」と題したパネルディスカッションでした。

森口氏による基調講演では、さすが「鉄道ライター」だけあって、鉄道に関する貴重な話が聞けました。二人目の赤澤氏は岡山県倉敷市玉島での地域観光に関する基調講演で、倉敷市在住の私にとっては、新しい発見であり興味深い内容の講演でした。

パネルディスカッションは、コーディネーターに西藤島根県立大学准教授、パネラーには 3 名の中に我が今福線研究分科会の和田氏が加わり、観光要素の強いソフト的な話から土木的なハードな話を織り交ぜ約 1 時間 30 分にわたり熱いディスカッションとなりました。

3. 一日目（8月8日）懇親会

懇親会は浜田市長をはじめ約 50 人が参加され、鉄道の話、今福線の話に大いに盛り上がりました。

懇親会には、今福線建設工事に携わっていた方のお孫さんがわざわざ横浜から参加され、びっくりしたと同時に新たなつながりができたと感動しました。



4. 二日目（8月10日）

二日目は、2班にわかれてのエクスカージョンで、地元案内人の方、我々今福研究分科会のメンバーが案内を務め、JR下府駅から出発し、下府地区、宇津井地区、佐野地区における幻の鉄道遺産の魅力をPRしました。今までは数人のメンバーとの見学でしたが、今回は縦断技術士会の方も含め大勢での見学となり、にぎやかなエクスカージョンでした。特に島根県、浜田市、地元の方々により見学場所が非常に整備されており、整備後に訪れたのは初めてだったので非常に感動しました。また、今後の観光資源、地域の活性化につながると感じました。見学の途中で地元の方からのスイカの差し入れもあり、ハイキング感覚でのエクスカージョンとなりました。また、「おろち泣き橋」での川の流れの音が変化する場所では、みなさんが驚かれ立ち位置を何度も変えて聞き入っていました。

● エクスカージョン・コース案内



5. おわりに

今回のシンポジウムは今福線研究分科会にとって大変意義のあるシンポジウムであり、今福線のこの遺産は、いろいろなところへ波及していく可能性があると感じました。今福線研究分科会は発足して5年以上が経ちますが、今福線を活かす活動は今年がスタートの年であると思います。今後も今福線研究分科会のメンバーとしてこの今福線を活かす活動に関われたらと思います。